

皇學館大学

研究シーズ集

令和7年4月発行

本研究シーズ集は、企業・自治体等の皆様との連携をより一層推進するため、本学研究者の研究内容や連携アピールを1課題1ページで紹介しています。

各研究課題をご覧ください、本学との共同研究や受託研究、地域の課題解決に向けた受託事業に関心をお持ちいただけましたら、ぜひご連絡ください。

研究開発推進センター

受託研究及び共同研究に関するお問い合わせ、お申込みは研究開発推進センターへご連絡ください。

皇學館大学

研究開発推進センター

〒516-8555

三重県伊勢市神田久志本町 1704 番地

TEL : 0596-22-6466

Mail : kenkyu@kogakkan-u.ac.jp

地域連携推進室

受託事業等に関するお問い合わせ、お申込みは地域連携推進室へご連絡ください。

皇學館大学

地域連携推進室

〒516-8555

三重県伊勢市神田久志本町 1704 番地

TEL : 0596-22-8635

Mail : kikaku@kogakkan-u.ac.jp

歴史・文化

国際理解・外国語

芸術・スポーツ

学校教育

産業・観光

健康づくり・食育

幼児教育・保健・子育て支援

数理・統計

ICT・メディアリテラシー

防災・減災

文学・言語学

地域づくり

社会教育・生涯学習

体験活動・ワークショップ

環境・地理

算数・数学教育における教授法に関する研究 可積分系の理論における研究

研究の概要

■ 算数・数学教育について

本研究の概要は、保幼小中高と成長していく中で学ぶ「算数・数学」において、どのように系統立てて学んでいくと児童生徒がより深く算数・数学を理解することができ、主体的に学習に取り組めるかについてです。また、小学校における問題解決学習のプロセスと、中学校・高等学校における課題学習をもとにした問題解決型の学習についても併せて追究していきたいと考えています。

■ 純粋数学（解析学）

複素領域上の微分・差分方程式、およびその解として定義される特殊函数、特にパルヴェ方程式（以下の6つの微分方程式）について研究しています。

$$\begin{aligned}
 P_I: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = 6q^2 + t, \\
 P_{II}: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = 2q^3 + tq + \alpha, \\
 P_{III}: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = \frac{1}{q} \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \frac{1}{t} \frac{dq}{dt} + \frac{1}{t} (\alpha q^2 + \beta) + \gamma q^3 + \frac{\delta}{q}, \\
 P_{IV}: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = \frac{1}{2q} \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 + \frac{3}{2} q^3 + 4tq^2 + 2(t^2 - \alpha)q + \frac{\beta}{q}, \\
 P_V: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = \left(\frac{1}{2q} + \frac{1}{q-1} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \frac{1}{t} \frac{dq}{dt} + \frac{(q-1)^2}{t^2} \left(\alpha q + \frac{\beta}{q} \right) + \gamma \frac{q}{t} + \delta \frac{q(q+1)}{q-1}, \\
 P_{VI}: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{q} + \frac{1}{q-1} + \frac{1}{q-t} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \left(\frac{1}{t} + \frac{1}{t-1} + \frac{1}{q-t} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right) \\
 & + \frac{q(q-1)(q-t)}{t^2(t-1)^2} \left(\alpha - \beta \frac{t}{q^2} + \gamma \frac{t-1}{(q-1)^2} + \left(\frac{1}{2} - \delta \right) \frac{t(t-1)}{(q-t)^2} \right).
 \end{aligned}$$

連携アピール



■ 算数教育分野においては、保育所、幼稚園、小学校、また、数学教育分野においては中学校、高等学校においてICT機器や教材・教具を用いて算数・数学的活動を通じた出前授業の実施を行っていきたいと考えております。

キーワード



- 算数・数学教育
小学校・中学校・高等学校における算数・数学教育全般
- 純粋数学（解析学）
複素領域における微分方程式・可積分系・特殊函数論

研究者



上野 祐一
Yuichi Ueno

准教授 博士（理学）

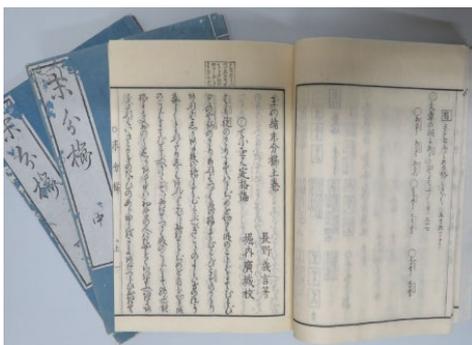
📍 教育学部 教育学科



国学者に関する研究 / 生涯学習としての博物館

研究の概要

- 本居宣長は国学の大成者と言われています。宣長が伝えた学問は幅広く、現在では様々な分野から研究がされています。宣長が伝えた学問がどのように広がっていったのかを解明していきたいと考えています。
- 近世期の人々が本居宣長の教えをどのように受容し伝播していったのかを明らかにするため、彦根の国学者・長野義言について研究しています。
- 伊勢や松阪近辺の国学者についても関心を持っています。地域から依頼いただいた講座講師の経験があります。
- 学芸員として、地域の歴史や文化財の保存・活用に取り組んでいます。資料調査や整理を行い、今後の活用へとつなげるお手伝いもしています。
- 地域や子どもたちの博物館教育普及活動にも取り組んでいます。一般の方を対象とした講座だけでなく、地域の子どもの向けワークショップも依頼いただいています。子どもたちや博物館に馴染みのない方たちの、博物館デビューをお手伝いできればと思います。



国学者の研究



小学生を対象とした親子教室

連携アピール



- 本居宣長や、地域に根差した近世国学者の魅力を発信します。
- 大人向けの講座のほか、子どもを対象としたワークショップや、博物館デビューなど、生涯学習に貢献できればと思います。
- 地域に眠る文化財の調査整理・保存活用についてご相談ください。

キーワード



- 文化振興活動
国学者や文学の調査研究、講座講師。
- 歴史・伝統文化活動
地域資料の調査整理や博物館活用の推進。

研究者



浦野 綾子

Ayako Urano

准教授 / 学芸員

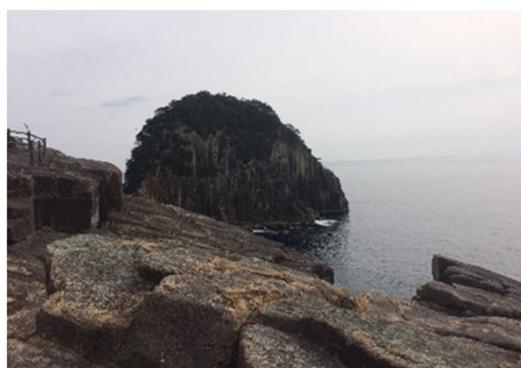
 研究開発推進センター（神道博物館）



上代文学の研究

研究の概要

- 私の主たる研究は訓詁・注釈を通じた上代文学作品の理解です。万葉集・古事記・日本書紀などの古典ではその原本は存在せず、写本・版本しか残っていません。その中で諸本を比較検討しながら正しい本文と訓、解釈を導き出すことを行っています。上位文学作品には三重県の各地も登場します。作品の読解を通して、郷土への理解も深めることができればと思います。



連携アピール



- 三重県には上代文学と関わる故地が多くあります。古事記・日本書紀では、神話や神武天皇東征・日本武尊（倭建命）などの話の舞台でもあります。万葉集では、大伯皇女・柿本人麻呂・聖武天皇・大伴家持をはじめ多くの歌が残ります。作品の理解を深めながら、その土地の魅力を発信したいと思います。

キーワード



- 上代文学
- 万葉集
- 古事記・日本書紀

研究者



大島 信生

教授

Nobuo Oshima



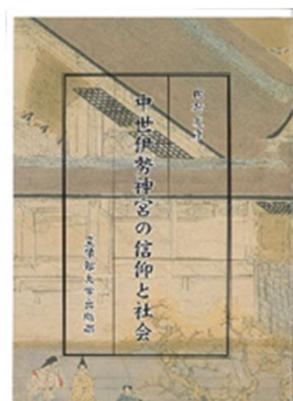
文学部 国文学科



伊勢・志摩・伊賀の中世史

研究の概要

- 本研究の概要は、平安時代の後半から鎌倉・室町・戦国・安土桃山時代にかけての伊勢・志摩・伊賀3か国の歴史について、地域の人々と連携しつつ解明してこうとするものです。
- この研究テーマで、次のような講演実績があります。「津市内の伊勢参宮街道」（湯元榊原館、2024年6月）「熊野古道伊勢路の中世石造物」（尾鷲市立中央公民館、2023年10月）、「かめやま中世文書のみどころ」（亀山市歴史博物館、2023年1月）、「天正伊賀の乱と伊賀惣国一揆」（名張市防災センター、2022年9月）、「伊勢国司北畠氏VS伊勢国人長野氏」（美里文化ホール、2022年6月）など。
- このテーマで、次のような著作があります。『北畠親房』（ミネルヴァ書房、2009年10月）、『中世伊勢神宮の信仰と社会』（皇學館大学出版部、2021年6月）。



連携アピール



- 日本中世史を専攻し、三重県の中世史に興味を持っている関係から、中世の伊勢神宮や伊勢国司北畠氏、あるいは伊勢平氏について、地域からの講演依頼にお応えしてきた。また前職が博物館学芸員であった経験から地域の博物館や文化財保護に関係する仕事でも社会貢献している。

キーワード



- 日本中世史
平安時代後半から鎌倉・室町・戦国・安土桃山時代の歴史
- 地域史
伊勢神宮・伊勢国司北畠氏・伊勢平氏などに関する歴史
- 博物館学
文化財保護・古文書学・地域博物館の社会的役割など

研究者



岡野 友彦

教授

Tomohiko Okano



文学部 国史学科



教育現場に求められる対応力・実践力の修得

研究の概要

- 学校で起きやすい事象事例をもとに、シミュレーション学習を行います。救急処置が必要な場面を再現し、どのような対応や連携が求められるのかを体験してもらうことで、救急処置に必要な知識と技術を修得し、今後の課題を参加者で共有します。
- 性教育における効果を、縦断的・横断的に評価します。指導を行う際は、一人ひとりの心身の発育・発達に個人差がある点に留意して、子どもの実態に基づいた授業内容を構築します。アウトプットとして子どもにとって役立つ知識を身につけることと、自分の身を守る行動の実践を目指します。



連携アピール



- 安全教育、救急処置対応
保育・学校現場に求められる救急処置は、医療機関に搬送するまでの適切な手当てが求められます。教職員に対して、チーム学校の一員として教職員一人ひとりが自分の果たす役割について学び、課題を見出すための研修を提供します。また、子どもたちに対して、ケガや事故を防ぐための安全教育を実施するとともに、自分たちでできる救急処置の技術を身につけさせることや、事故再発防止のための環境作りなどについての講習を実施します。

- 性教育講話
人権教育を基本とした生きるための性（生）教育を提供します。包括的性教育に根差した、命の安全教育をはじめ、自己決定できる対応力や自分を大切にできる実践力を育みます。教職員、子どもだけでなく、保護者への講習なども可能です。

キーワード



- 幼児教育・保育分野
乳児保育、子どもの保健、健康と安全の分野における研修
- 健康づくり分野
教育現場に必要な救急処置、食物アレルギー対応の研修
- 性教育分野
出前性教育講座

研究者



小川 真由子 准教授

Mayuko Ogawa



教育学部 教育学科



英語スピーキングの指導と評価

研究の概要

- 英語で会話をするには、正確さや流暢さ等「言語能力」が必須ですが、それだけでは英語で会話ができるようにはなりません。話をふくらませたり続けたりする「対話能力」が欠かせないのです。
- 「対話能力」を向上させるにはどうすればよいか、小・中学校で行われているSmall Talkという活動を用いて「対話能力」を向上させる方法を研究しています。
- 「対話能力」を評価するには、教師やALTと話す「面接型」テストと学習者同士が話す「対話型」テストがあります（図1参照）。小・中学生の「対話能力」を評価するには「面接型」テストと「対話型」テストのどちらが適切なのかを研究しています。
- 研究の成果は、県や市町が主催する教員研修に活かしています。

教師や面接者と話す
「面接型」テスト



学習者や受検者同士が話す
「対話型」テスト



図1. 対話能力を評価する2つのテストの型



連携アピール



- 10年以上にわたり、県市町・小中学校主催の公開授業の助言者や教員研修の講師を200回以上担当しました。
- 現在、英語のスピーキング力、とりわけ双方向で話す「やり取り」の力（対話能力）を向上させるための指導と評価を研究しています。

キーワード



- 小・中学校外国語教育
- 英語の授業づくり
- 話すこと [やり取り]



研究者



川村 一代 教授

Kazuyo Kawamura



文学部 コミュニケーション学科



伊勢・熊野の信仰と和歌

研究の概要

本研究の概要は、中世の伊勢や熊野の神仏習合が中世和歌の本質に与えた影響を解明するため、中世和歌の源流をなす西行と慈円という歌僧の和歌について悉皆的な調査を行うというものである。中世和歌はその本質において、近代的な自己とは相反する没個性的な類型性を有する。宗教信仰も、個々人のばらばらな思いを一つの共同性のうちに包摂するが、中世和歌もまたそれに類する「本の思想」なるものを持つ。それが本歌取りや、本意（もとの心）、歌の本体（＝『古今集』）、本地といった概念である。中世の国土観における伊勢や熊野は、超越的存在としての神仏が垂迹する「本」（もと）の地であったのではないか、という見通しのもと、歌道仏道一如観の研究を日本中世史、仏教学、地理学とも連携しつつ行ってゆく。



連携アピール



私の専門とする中世和歌において、和歌と仏教がタイアップして、「歌道」が作り上げられてゆく中で、伊勢や熊野は聖地となりました。平安時代から和歌は「百首歌」という形式で神仏へ祈願を届ける手段となっていました。その中で中世和歌は祈りの言葉として完成され、さらに熟成を重ねていきます。その熟成の過程において慈円は大きな役割を果たしています。伊勢や熊野へのはるかな道程の苦しさを乗り越え、自然の風景に心を澄ます修行は西行和歌の本質をなし、芭蕉の『奥の細道』にも繋がっていったのです。

キーワード



- 地域観光
- 日本中世文学
- 仏教学

研究者



木村 尚志

Takashi Kimura

教授 博士（文学）

文学部 国文学科



人口減少時代の地域づくりに向けた地理学的研究

研究の概要

人口減少時代に入入した日本では、人口増加時代の既存の枠組みで地域の将来像を描くことが困難になっています。本研究では量的・質的なアプローチを組み合わせ、これからの地域づくりや人々の生活について皆様と一緒に考えていければと思います。

■ 人口移動研究

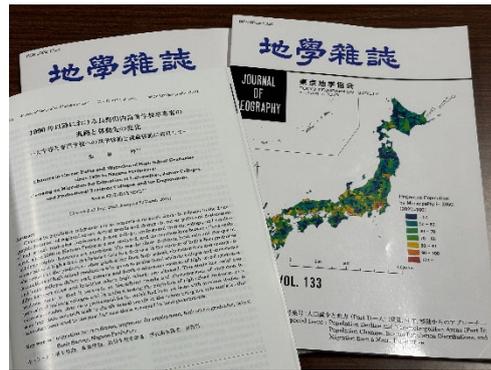
地域の将来を考えるにあたって、人々がどこからどこに流入／流出しているのか、それはなぜかを考えることは非常に重要です。地域統計や地理情報システムを活用し、人口移動の動態から地域について考察しています。

■ 公共施設・サービスの需給と人々の生活の変化

これまでは特に学校の撤退や新設立地に着目して、地域や人々の生活に与える影響について分析・考察を進めてきました。これからは学校の統廃合のプロセスや、それともなう人々の生活圏の変化にも迫っていこうと考えております。



京都府庁での聞き取り調査



長野県庁で収集した地域統計の分析と結果報告

連携アピール



- 以下、これまで研究にご協力いただいた自治体の一部です（埼玉県久喜市、埼玉県朝霞市、東京都文京区、長野県、三重県鳥羽市、愛知県瀬戸市、愛知県みよし市、愛知県美浜町、京都府、京都府京田辺市、鹿児島県南さつま市、など。その他複数のNPO法人、公益財団法人、学校法人、民間企業）。また、調査後、分析結果のフィードバックを「研究報告会」として実施して参りました。

キーワード



- 人口減少／人口移動
- 生活／ライフ
- 地域統計／地理情報システム

研究者



栗林 梓

Azusa Kuribayashi

助教 博士（学術）

 文学部 コミュニケーション学科



伊勢を拠点とした歴史資料の調査研究・活用

研究の概要

- 中世以降に日本全国で大流行した「伊勢参宮」と、伊勢への信仰を広め、現代の伊勢志摩観光のベースを築き上げた「伊勢御師」について研究しています。最近では、新しく発見された（に触れる機会）などの取り組みも行っています。最近では、新しく発見された約15,000点にも及ぶ膨大な伊勢御師関係の歴史資料や、自治体や所有者の方からご要望いただき、古い墓石を調査しています。
- 地域に残された未公開の歴史資料を調査・整理し、展覧会・講演会・学校の出前授業といった様々な機会に、研究で得られた情報をわかりやすく発信しています。また、皇學館大学佐川記念神道博物館の学芸員として、歴史資料に書かれた文字（くずし字）の読解講座や、小学生以上の子どもたちを対象としたワークショップ（歴史・伝統工芸などに触れる機会）などの取り組みも行っています。



古文書調査の様子（資料整理・撮影など）



墓石調査の様子（拓本・実測図・撮影など）

連携アピール



- 伊勢を拠点として、地域に残された未公開の歴史資料を調査・活用し、展覧会や講演会、取材などを通じて情報発信しています。
- 小学生以上の子どもたちを対象としたワークショップや課外授業を通し、地域の魅力を次世代へ繋げる活動をしています。
- 自治体や所有者の方からご要望をいただき、古い墓石を調査しています。

キーワード



- 日本中世史・神道史
中世の伊勢神宮や信仰、伊勢御師の活動と展開に関する研究
- 生涯学習・文化振興活動
神道博物館を拠点とした地域史資料の調査研究・活用

研究者



小林 郁

Kaoru Kobayashi

助教 / 学芸員



研究開発推進センター（神道博物館）



食支援から目指す健やかな育ち、健康維持

研究の概要

・本研究のテーマは、主に乳幼児期の食の重要性を明らかにするとともに、地域における子育て支援活動でそれを具現化することです。

また、食物アレルギー児など、特別な配慮が必要な子どもさんに対する保育現場での対応についても、保育現場に対するアンケート調査を基に「保育の専門家である保育者に寄り添った支援の方法について伝えていきます。



連携アピール



- 将来にわたり健康を維持し、健康増進を図るための生活習慣を中心とした講演会活動を行います。
- 三重の食材などを活かした調理体験など、実践的体験活動を通じた食育事業を行います。
- 保育施設における食物アレルギー児対応について、保育者視点で演習を含め行います。

キーワード



- 食育
- 食物アレルギー児支援

研究者



駒田 聡子

Akiko Komada

教授 博士（医学）

📍 教育学部 教育学科



ことばの資源性に関する研究

研究の概要

- ことばのもつ社会的な役割を資源として捉え、文化的価値の可視化における提案とその効果について検証します。
- 「ことばは命を守れるか」をテーマに防災・減災におけることばの伝承力を高める研究に取り組みます。



連携アピール



地（知）の拠点整備事業（COC事業）の事業推進責任者として地域課題の解決に取り組んできました。ことばの調査を通じて、地域の文化的資源の活用についても広く関心を持ち、地域社会に貢献できるよう取り組みを進めています。

- 三重弁辞典（2025年版三重県民手帳、令和6年10月）
- 「高知県西部の地震津波記念碑の伝承内容と方法について」（皇學館大学文学部紀要第60輯、令和4年3月）
- 伊勢市の花・木・鳥選考委員会答申（伊勢市ホームページ、令和3年12月）
- 三重県内ファミリーマート設置イーネットATMの方言音声案内の構築（平成28年12月）
- 伊勢方言かるた（リントス、平成26年1月）

キーワード



- 文化振興活動
ことばを活用した地域づくり
- 地域社会活動
ことばを活用した防災・減災対策

研究者



齋藤 平

Taira Saito

教授 博士（文学）

文学部 国文学科



理科教育における教材開発および授業実践

研究の概要

- 昆虫は生物としてヒトと共通する部分を多く持ち、その体の仕組みや特性は医学や工学にも応用される有用な生き物です。
- ヒトとの共通性を有する昆虫を用いた教材を開発し、保育所・幼稚園から高等学校に至るまで現場に提供することで、実感を伴った理解につながると考えられます(図1)。
- 本研究では、身近な存在である昆虫を用いた生活科および理科の教材を開発し、大学生が主体となった出前講座を実践します。さらに、児童・生徒を対象としたアンケート調査から教育効果を検証しています(図2)。

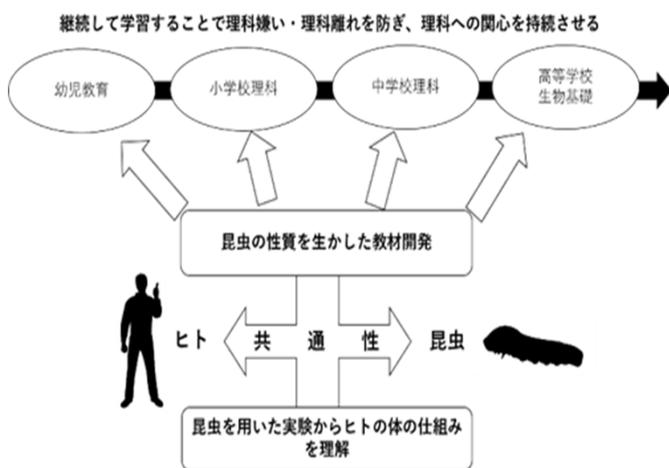


図1 昆虫を用いた教材開発のフローチャート



図2 生活科の出前講座
A：講座を進行する大学生， B：ICTを活用して昆虫を観察する児童。

連携アピール



- 理科教育分野では保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校において昆虫を用いた教材の開発と出前講座、環境教育分野では昆虫を用いた生態系の展示や説明を行っています。このような分野で共同研究や地域に貢献することができればと思います。

キーワード



- 理科教育学
保育所、幼稚園、小学校生活科・理科、中学校理科、高等学校生物基礎・生物における昆虫を用いた教材の提供
- 環境教育学
生態系・環境教育

研究者



澤 友美
Tomomi Sawa

准教授

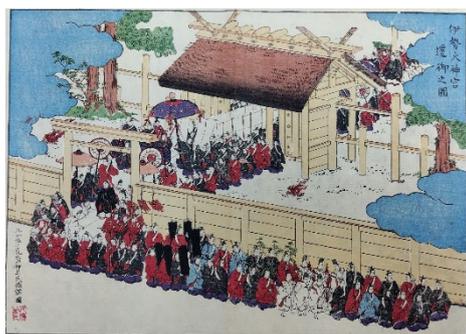
教育学部 教育学科



天皇・伊勢神宮の祭りと歴史

研究の概要

- 日本列島は豊かな自然に恵まれている反面、古代より自然災害が多く、列島の人々は地域の安全や食物の豊かさを願って祭りを行ってきました。なぜ神々への信仰と祭りが現在にまで継続してつながってきたのか、その理由や歴史的経緯の解明を目的としています。
- 天皇の御代替わりには大嘗祭という特別な祭りが行われ、毎年11月23日には宮中で新嘗祭が行われています。この天皇の祭りは古代からの古い歴史がありますが、なぜ天皇は祭りを行い続けてきたのか、祈りの目的とは何か、祭りの具体的な内容と歴史について研究しています。
- 天皇の祭りは伊勢神宮に鎮座する天照大御神に対して行われてきました。伊勢神宮の祭りも古代からの歴史があり、20年に1度、お宮を新しくして大神をお遷しする式年遷宮が行われ続け、江戸時代には多くの参拝者が伊勢を訪れました。天皇の崇敬から庶民の参拝まで、伊勢に人を惹きつける磁力の根源とは何なのか、祭りのあり方とその歴史から解明することを目的としています。



式年遷宮の遷御の儀式



令和の大嘗宮

連携アピール



- 伊勢神宮には天照大御神を祭る内宮だけでなく、豊受大御神を祭る外宮や、様々な別宮、神社があります。それぞれの由緒や意義、歴史・地域性について解説することができます。
- 伊勢神宮からやや離れた明和町に斎宮があり、未婚の皇女を遣わす慣例がありました。斎王の祭りと存在意義について解説することができます。
- 天皇・皇室の概要や歴史と祭りについて解説することができます。

キーワード



- 天皇の祭りはなぜ続けられてきたのか。天皇の祈りとは何か。
- なぜ伊勢神宮は人々の信仰を集めてきたのか。式年遷宮が重要視され続けてきたのはなぜか。
- なぜ神社は今日まで存在し続けたのか。信仰の根源と神話伝承。

研究者



塩川 哲朗

Tetsurō Shiokawa

准教授 博士（宗教学）

研究開発推進センター 神道研究所



学校組織マネジメント・教育の方法と技術

研究の概要

- 世の中の変化が学校教育に大きく影響を及ぼしてきている現在、様々な教育方法に目を向け柔軟に対応できる教師の在り方を研究していきます。そのため、具体的な教育方法に着目しどのような共通点やバリエーションがあるかを探求していきます。
- 到達目標と次年度の取組でカリキュラムマネジメントを基に、様々な教育方法を活用し、継続的に授業改善を進めていくサイクルの確立を目指します。
- 学校教育に求められる様々な教員のコンプライス推進や危機管理意識について、具体的事例をもとにして、組織的な対応の在り方を考えます。

教員の資質向上



ICT活用授業実践



連携アピール



- 学校組織マネジメントの観点から、「教員の資質向上」、「ICTの教育活用」、「学校教育に関わる諸課題や教員のコンプライアンス・危機管理」等に関して、現状分析から、今後の方向性まで教育現場の視点からサポートします。

キーワード



- 教師教育
養成、研修の分野で、教員の資質向上とコンプライアンス推進ために学校をサポートします。
- 学校組織マネジメント
学校を取り巻くさまざまな環境を的確に把握し、学校の有り様をその刻々と変化する環境の中に適応できるようサポートします。
- 授業改善(ICT活用含)
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関し、授業方法(ICT活用・評価手法)に関するサポートをします。

研究者



勢力 稔
Minoru Seiriki

教授 博士(政策科学)
📍 教育学部 教育学科



コンテンツを利用した地域コミュニティづくり

研究の概要

- 本取り組みの概要は、高齢化社会の課題となっている認知機能の改善へとつながる「音読の効果」を身近なコンテンツである絵本、古典文学や図書館所蔵の地域資料などを題材に音読することで脳のトレーニング、筋肉のトレーニングへとつなげ、無理なく、日常生活に取り入れられる健康長寿の方法を提案するものである。
- 自治体が主催する60歳以上の市民向け「シルバーカレッジ」などで、身近な新聞を使ったゲーム、古典文学・絵本を使った音読やアニメーション、ビブリオバトルなどを組み合わせて楽しみながら頭と身体を使って健康長寿を目指すワークショップを企画運営。
- 音読の魅力に加え、介護予防指導士とともにオリジナルな運動やコミュニケーションゲームも取り入れたワークショップは、地域でともに健康に暮らすための提案型講座として新型コロナウイルス感染症の影響下においても、それぞれのコミュニティでの参加者は延1,000人を超える。



連携アピール



公共図書館の館長として図書館を取り巻くステークホルダーとともに地域住民の集う場づくりを実践している。その自治体や近隣の高齢者向けに古典文学・地域資料の音読、アニメーションやビブリオバトルなどを通し、本を読む楽しさ、仲間づくり、それらの効用で免疫力を上げ、健康長寿を目指すワークショップを開催している。特に音読は簡単にできる認知機能の改善方法のひとつとして薦めている。

キーワード



- 社会教育・生涯教育
公共図書館及び地域コミュニティにおけるワークショップ
- 地域づくり
古典文学、絵本、新聞など身近なコンテンツを介在させたコミュニティづくり

研究者



千邑 淳子
Jyunko Chimura

准教授

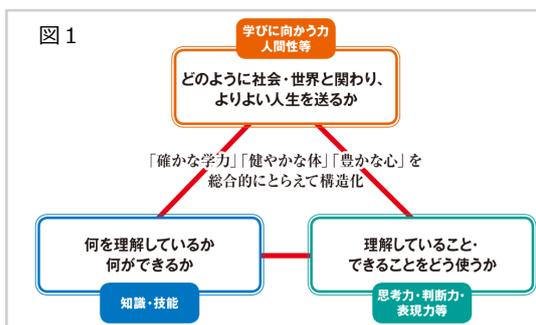
文学部 国文学科



- ・国語科における思考力・判断力・表現力の育成（ICT活用も含む）
- ・絵本の読み聞かせを活用した保育・幼児教育におけることばの育成

研究の概要

- 普段意識しないまるで空気のような「ことば」。しかし、人と人との意思疎通を図るために必要かつ重要なものです。AI全盛の時代となっても、それを活用するためには、正確な指示や質問（プロンプト）を書き出す必要があります。「ことば」は、我々人間にとってますます重要なツールとなっていくことは疑う余地もありません。
- その「ことば」を扱うためには、育成すべき資質・能力の三つの柱（図1）に示された、知識・技能が必要ですが、AI活用も視野に入る今後は「ことば」を使って、思考する、判断する、表現することを重視した教育が求められます。ICT機器活用も含め、「思考力・判断力・表現力」の育成を確実にし、その先にある「学びに向かう力、人間性の涵養」へと導くための教育の提供が必要で、関連する研究を進め、実践することは急務です。そのための理論と具体的方策を探る研究をしています。
- また、その根幹をなす「ことば」への興味・関心と土台の育成は、保育・幼児教育からはじまります。幼少期に多くのことばのシャワーを浴びせ、「語句」「表現」の数を増し、運用場面を多く設定し、確固たる語彙力の土台を作る必要があります。その一つの方法として、絵本の読み聞かせが効果的です。絵本を活用したことばの育成に注目し、その具体的方策を探る研究をしています。



学生が作った壁面



連携アピール



- 学校教育分野
小・中・高校における、授業作り等の教員研修
- 幼児教育・保育分野（主に絵本活用）
保育所・幼稚園における研修、養育者への絵本を活用した講演、地域における絵本の読み聞かせ

キーワード



- 国語科教材研究、授業手法と教材作成（ICT活用も含む）
- 乳幼児の言語発達、小・中学生への言語教育
- 絵本のことば、絵と言葉の関係、読み聞かせの効果

研究者



中條 敦仁

Atsushi Chujo

教授 博士（文学）

教育学部 教育学科



社会科におけるエネルギー環境教育

研究の概要

- 地球温暖化が深刻な問題となり、世界的に脱炭素・カーボンニュートラルへの取り組みが求められています。しかし、国家間、地域間、共同体間などにおける意見の相違によって、取り組みはなかなか進んでおりません。こういった現状から、脱炭素・カーボンニュートラルの実現を目指すためには、新たな再エネ技術を導入するといった科学的なアプローチだけではなく、話し合いを通じた他者理解や合意形成といった、社会的なアプローチが重要となってきます。社会科においてどのような授業を構築することで、脱炭素・カーボンニュートラルに向けた他者理解や合意形成が図られるのか研究を進めています。
- 脱炭素・カーボンニュートラルといった概念は、複雑で理解しづらいものです。このような概念を児童・生徒が具体的に捉えることができる方法についても研究を進めています。この研究の一環として、「伊勢市環境フェア」にゼミで出展し、地域の方々に脱炭素・カーボンニュートラルについて考えていただく取り組みにも参加しています。
- 総合的な学習（探究）の時間において、脱炭素・カーボンニュートラルをどのように位置付けていくか、ということについても研究を進めています。



連携アピール



- 脱炭素・カーボンニュートラルなどについて、児童・生徒と共に考える出前授業の開催。
- 脱炭素・カーボンニュートラルを位置付けた社会科や総合的な学習（探究）の時間についての単元開発・授業開発・共同研究など。

キーワード



- 社会科・総合的な学習（探究）の時間
- エネルギー環境教育
- 脱炭素・カーボンニュートラル

研究者



萩原 浩司

Koji Hagiwara

准教授



教育学部 教育学科



若者による地域社会活動の教育的効果と地域に与える影響

研究の概要

- 本研究は若者による地域社会活動の教育的効果ならびに地域に与える影響をテーマにしています。
- すでに、本学の地域社会研究会や茶業研究会、CLL活動、ゼミにおいて、和紅茶の「宇治山田の和紅茶」や「常若のしずく」、「うつぼ美人」などの商品を企画・開発しています。
- 本研究では、その活動を通して、参加した学生にどのような教育的効果があったのか、また関係した地域にどのような影響を与えたのか、についての新たな知見を探っています。



連携アピール



社会調査関連で連携したり、また地域社会研究や茶業研究会の「宇治山田の和紅茶」や「常若のしずく」、行政・地元企業とコラボをしている「うつぼ活用プロジェクト」や「お茶Bottleプロジェクト」、「お茶の木プロジェクト」などを活用して別の商品を開発したり、新たな商品を開発する時に連携を希望します。

キーワード



■ 地域社会活動

アンケート調査やインタビュー調査など社会調査の技法を用いた地域や教育に関わる共同研究

研究者



藤井 恭子

Kyoko Fujii

教授

📍 現代日本社会学部 現代日本社会学科



国際政治、米中関係 日本の外交安全保障

研究の概要

2025年1月に新政権が発足した米国の動向は、日本だけでなく世界に大きな影響を与えようとしている。トランプ共和党政権は、ウクライナを侵略するロシアに対して、これまでとは異なったアプローチを採用している。

一方で近年の中国は、特に習近平指導部発足以降、極めて強硬な対外政策を展開している。米中関係は覇権を巡る争いと化し、台湾情勢は急速に緊迫の度合いを増している。

我が国は、令和4年12月に国家安全保障戦略を改定し、防衛力強化の方向性を打ち出した。最新の動向を踏まえつつ、当課題について研究を進める予定だ。



連携アピール



- 幅広い層を聴衆としての講演実績あり

キーワード



- 国際戦略

企業や自治体が海外戦略を立案する際に、その基盤となる国際情勢についての認識理解をともに深める。

研究者



村上 政俊 准教授

Masatoshi Murakami



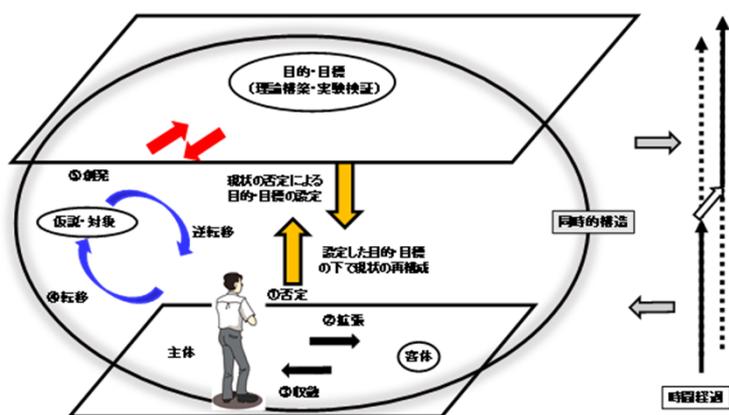
現代日本社会学部 現代日本社会学科



正解のない世界と正解を求める 現代教育の狭間に挑む

研究の概要

- 本研究の課題： 「如何にして、正解のない世界と正解を求める現代教育の狭間に挑むか」、すなわち、「どうすれば、対立を乗り越え続けることができるか」。これが、本研究の課題です。重要な観点とは、対立を乗り越え続けるには矛盾の活用が不可欠です。そのために失敗を恐れずに失敗から学ぶこと、真剣な遊びを通して物事の本質を学ぶこと、病いを体験して健康に目覚めることが大切です。
- すべての体験において、創造性が求められます。
- 『自然の覚知—生命の調和と循環』2024年出版



連携アピール



- すべての鍵は、自分自身の「ものの見方」にあります。「ものの見方」を変えると、それまで「目に見えなかった世界」が、色鮮やかに輝きはじめ、語りはじめてくれます！
- 私たちは、「遊び」と「学び」を分けて考えがちですが、「遊び」と「学び」を共に享受することで「共創と調和の循環」を実践することが出来るのです。もちろん、みなさんにも、そのような機会を創り出すパワーがあります。

キーワード



- 文理融合による統合的研究：創造性とはどういうことか？ ノーベル賞の発想から学ぶ「出来ないことこそ創造の原点」
- 芸術と心理学の統合的研究：不可能への挑戦とはなにか？ 一人では出来ない事から「心と身体と運動の統合に向けて」
- 未来創成学の展望と創造性：競争から共創への転換とは？ 自他一如の「共創」による「輝かしい未来の創造の展望へ」

研究者



村瀬 雅俊 教授

Masatoshi Murase

教育学部 教育学科



